

第3回白石町総合計画審議会 会議録（要旨）

- 日 時 令和3年9月29日（水） 午後7時00分～午後9時00分
- 場 所 白石町役場庁舎3階大会議室
- 出席者 委員：18人出席
町：副町長、総務課長、総合戦略課長、企画財政課職員5人

○開会

【進行：山下課長補佐】

○会長挨拶

こんばんは。皆様方におかれましては、日中お仕事等々で大変お忙しい中、またコロナ禍であります。第3回目の白石町総合計画審議会に出席いただきありがとうございます。今回から施策の審議になりますのでよろしく申し上げます。時間が限られていますが、活発な意見をいただきたいと思っています。

○審議事項

進 行：審議事項については、川崎会長に進行をお願いする。

会 長：（1）第3次総合計画施策に関わる調査結果に基づく審議を議題とします、事務局に説明を求める。

事務局（進行）：皆様のより活発な意見をいただくために今回から事務局で会長の進行補助をして進行をしていく。まず、第3次総合計画策定に関わる調査結果という資料が基礎調査と住民アンケート調査、それから第2次計画の進捗状況調査を取りまとめている資料であり、この資料を基に素案を策定していくことになる。これから第3回、第4回、第5回の審議会でのこの資料を基に皆様方の意見をお伺いし、議論をして、それを計画に反映をさせていく手法を取っていきたい。

資料1について、第2回目の審議会の際に委員の皆様アンケート調査で審議会に対しての意見を聞いたところ、もっと意見交換ができれば良いという意見が複数あった。事務局で協議し、事務局で進行をして皆様から意見を引き出していききたい。

総合計画は、町の行政分野全部を網羅しているもので、非常に広範な計画になっている。ここに示しているとおり、第3回、第4回、第5回でテーマを分けて、テーマごとに集中して審議をお願いする。

今日もテーマを定めているが、議論を活発にさせていただくに当たり、何名かの委員様に、あらかじめこういうことを聞きたいと相談をさせていただいているので、その委員の意見を広げていくような形で進めていききたい。

また、時間の制約があり、事務局で一番関係が深いと思うテーマをピックアップして3回、4回、5回の審議会のテーマとしており、ここに載ってないテーマで何か意見等があればその他の項目で意見を出していただきたい。

いただいた意見については、最終的にどのような意見が出たかを取りまとめをして、その意見を計画に対してどう反映していくかを皆様方にお示しをさせていただきたい。

次に別添1、別添2の資料だが、今後の審議会のスケジュールになる。まず、別添1が、前回第2回の審議会でお示しをしたスケジュールになる。資料1を説明する際にも説明したが、より多くの意見を聞きたいということで審議会の回数が1回足りないのので、別添2のとおり、回数を増やした形で実施をさせていただきたいと思っている。委員の皆様方にはご負担をさらにかけるような形になるが、よろしく願います。

送付資料についての説明は以上になるので、早速審議事項の中に入って行く。進め方について説明をする。まず、資料3に基づき現状、課題等を説明するのでその後委員の意見を聞いて行く。オレンジ色で施策分野ということで書いてある部分が1個1個のテーマの部分になっている。この分野ごとに進めていきたい。各テーマは大体15分から20分ぐらいでやっていきたい。

<資料3、第3次白石町総合計画策定に関わる調査結果に基づき事務局より現状と課題や現在の取組、考えられる主な施策等の説明を行い委員より意見聴収、議論を行った。>

【移住・定住の促進】(資料1 ページから4 ページ)

委員：Uターンして白石に戻ってきており、Uターンする前は東京で仕事をしていたので、そこから見た白石と実際に住むに当たって白石町のことをホームページ等でかなり調べた。そういったところの経験を踏まえて、今回お話をさせていただければと思っている。

まず、今回この町民アンケートが2000人対象で44%の回収率で、アンケートの結果を見ると、その前提として白石町は基本的に農業の町で、大多数がその景観が損なわれることなく発展していくことが望ましいという意見が多いと個人的な分析で思っている。さらに、町のコンセプトも見ると「人と大地がうるおい輝く豊穡のまち」と基本理念があり、町としても農林水産業の分野の人たちに対してすごく優しいのかなと外から見たときに思うが、住むに当たってどういうメリットがあるかを見たときにあまり見えづらい、ホームページを見たときに、そんなにメリットあるのかなというところがある。そこも踏まえて、町がされている主要な事業、空き家対策と結婚推進に対して既に実施しているので、ここをさらに町の方向性と合わせてアップデートすることが一番いいと思う。空き家対策と婚活をほかの町や市と差別化を図って、他も多分同じことをやっていると思う。人口減少は全国的に進んでいる。どこの自治体も対策をしていると思う。しかし、白石町はよりよく目立ってここにサポートをしているというのがありPRを行えば住みやすくなるのかなと考えている。

具体的などころになるが、これは個人的な意見です。農作物である品種に対して、

例えばだが生産量も多いので、タマネギとかすごく有名だが、いろんな生産量で日本ナンバーズリーとかナンバーズーとかそういうのがあると思うが、おいしいというところの日本一を目指す。その基準が難しいとは思いますが、例えばブランドという考えでいけば、しっかりとしたブランドをつくることによって農業が強い町というところをよりよく見せることができる。

そういう取組をしたい新規就農者に対して空き家バンクをさらに活用してもらように、例えば現在空き家バンクに500万円とか高くて1,000万円ないぐらいの空き家の登録があるが、そういう農業に特化してさらによりよい農作物を社会に提供する意思がある、なおかつそういう活動をしたいという新規就農者に対して空き家の提示額の半分を町が補助する等の差別化を図ることをすればそれぐらい農業を町は推しているのが分かりやすい。幅広く行き過ぎるとターゲットが分かりづらいので、ちゃんとターゲットを絞ったほうが外からの見た印象や、Uターンするときに検索したときに分かりやすい。アンケートにもあったが、農業者たちにしかメリットがないような町だという回答があったと思うが、じゃあその農業者たちに対してもっとメリットが分かるような空き家の補助だったりをするのはいいかなと思っている。

私が県外に行った理由としては、日本で一番栄えているのはどこだろう、東京という簡単な理由で行った。私はスポーツの分野で行ったが、その分野で一番栄えているところはどこだろうと最初就職するときに考える。そこの就職先に1年間は家賃補助があって、さらに研修もあってスキルアップできる等の手厚いサポートがあるとよい。最終的にはそのスキルで生活できるというのがあると、そういう若手の人たちが仕事の面に対して、プラス家賃、生活に対しても安心して来られる。農業の町ということで農業者に対してしっかりとアピールするのが差別化を図るという上では、ちょっととがるぐらいの補助や施策をしてもいい。

先ほど言ったのは具体的になるので、今回だと全体の具体的施策というよりは大枠のことなので、私は農業出身じゃないのでちょっとあやふやになって失礼なことを言うかもしれないが、例えば生産量日本一とおいしさ日本一を町として目指すというぐらいのざっくりとした感じで白石町としてぼんと押し出すだけでも、農業分野で頑張りたい人たちが目につきやすいのかなと思っている。

あくまでも今話したのは新規の人たちに対してで、移住してもらうのも大事だが、定住者に対してのメリットがないと、ちょっと反発もあるのかなと思っている。さらにそういう農業を既にされている方もタマネギをよりよくおいしくするための研修等にも補助を出すと。補助を出しているというのをどんとすごく大きく出してあげると、すごく農林水産業者たちが入ってきやすい環境になるのかなというふうに思う。

結論としては移住・定住を誰でもいいというわけではなくて、アンケートの結果から景観を守ってほしいと町民は思っているなので、そこを損なわないために、商業施設が立ち並ぶことは考えられないと思う。現実的に考えるとそういう農業等に特化した方向性をPRして、それを既存の空き家バンクなどに結びつけて補助の対象にするということもいいと思う。

事務局（進行）：非常に詳細な意見をいただきまして、大変ありがとうございました。

まず、この移住・定住という分野がほかの分野とも非常に密接に関わってくるので、なかなか単体で議論をしにくい部分である。具体的に提案していただいた内容については、あともっていろんな分野でまた絡みが出てくると思うので、委員さんの意見も参考に頭の中に置きながら話を進めていければなと思っている。具体的な提案の中で、まずナンバーワンを目指すというところが1つ特徴的な部分と思う。実際生産量とかは非常に有名というところもあるが、おいしさでナンバーワンという売り方というのが、私もそこまで農業に詳しくないのであんまり耳につかないかなという部分。ただ、イチゴであったら「いちごさん」等のブランド化を図ることによって、そこをPRしている部分があると思うが、こういった売出し方とかどうですかね。実際町のほうで絡んでいくというところで参考になる意見。

今日は農業分野の課長がいませんので、いただきました意見は参考にさせていただければと思う。

委員が言われた商業施設が建つという部分だが、意見のとおり農業の町ということで、町全域が農業振興地域に指定をされていてなかなか開発というのが難しいという側面を持っている。これまでも町の主産業ではございましたけども、町の農地面積を見ても、これが後でまた農業分野はございますけども、担い手の皆さんとかそういった方が出てこられないと非常に町にダメージを与えるという部分がございますので、計画をつくる際に考えたいと思う。

事務局：特に農業の町、新規就農のところを言われたと思う。白石町においては、「しろいし農業塾」をしていて、これについては農業に特化した、農業をしていただくということで県外に募集をかけている。当然こういう来られる方については、やはり住居というのが一つ大きな問題だと思う。これについても、先ほど意見を出していただいた空き家の活用ということで、そういった空き家がないのかとか、まず住まれる住居も今後農業塾に研修に来られる方についてはセットのところでも町としても考えているところ。

ブランド化の部分については、委員が言われるようにブランド化をする必要があるということで、しろいしブランド確立対策事業もしている。最近ではコロナ禍で実施できていないが、東京都庁での白石フェアや福岡の市役所の前で白石の農産物のPRとかそういったところを取り組んでいる。

先ほど言われたように何が白石に1番いいのか、他の市町との差別化、やはりそういったところを十分さらに検討していかなければいけないと思っている。

事務局（進行）：この分野について、先ほどの意見に対する感想や提案、意見はありませんか。

委員：話に出なかった部分を提案したいが、補助の期間が出てこない。農業でイチゴやタマネギをする、収穫を上げられるように、農業で生活できるようになるまで少なくとも3年なり5年なり10年という期間があると思う。そういう長いスパン、期間を補助するようなことも検討する必要がある。

事務局（進行）：実際に施策を考える段階で十分参考にさせていただく。

【防災対策の推進】（資料9ページから11ページ）

委員：令和元年と先月の豪雨においては、うちの前に水路があり、7年ぐらい住んでいるが5回ぐらいあふれて、今までは車が通れるかなという感じだったが、令和元年、令和3年の大雨に関しては車も移動が厳しい状態になり、先月の場合は2日間続いて、15日の夕方やっと引いたような感じであった。子供も一緒に夜中に主人と交代で寝ずに外を見ながら、車だけは避難していたのでよかったが、家の犬走りのところまで来るか来ないかというところまで浸水したので荷物を取りあえず上げようということで、子供が寝ている間に腰から上に全てのものを上げた。今回経験することも含めて上げてみたが、結構大変で、床上浸水や床下浸水された方たちはもっと大変だったと思っている。近所の方の話によると、平成2年であれば大した影響はなかったとのこと。なぜ浸水するようになったのか原因が知りたい。雨量が多いというのはあるが、そのほかにも何か原因があるのではと思っている。

駐車場の水道メーターの蓋が取れているのに気づき、役場職員に対応してもらった際に「どこまで水が来たのですか」とか、そんないつも浸かっている場所でもあるし、役場からAコープの通り、通行止めって書いてあるにもかかわらず、冠水しているのは分かっているはずだが、そういう言葉かけというのにちょっと悲しい思いもした。それで、通行止めの看板も立てっ放し、よく聞くと、把握していない職員さんが多い、意外とここが冠水しているとか、私たちでも知らないところが冠水しているところはあるが、そういうのを知らないで、把握してくださってないというところも悲しいなと思う。

私たち普通の住民だけでなく、農家さんたちもすごく大変な思いをされている。もっと防災に力を入れるべき、今までの防災知識ではかなり足りない。今まで以上に雨が降るようにこれからなってくると思う。だから、もっともっとSNSの更新も、見ていると避難所だけの情報。あれは、SNSでは、動いてないのと一緒。私たちみたいに垂直避難する人たちからすると、避難所の情報なんか要らない。要らないと言っはいけないけども、それだけじゃ足りない、どこが冠水しているのか知りたいし。武雄のSNSなんかを見ると、グーグルマップに線を引かれて、常に更新されている。

武雄市の状態を見ていると、白石町にそういう悲しい経験をさせたくない、おとしはそんなになかったが、今回はもう武雄市はすごく暗くて、復興してないなと道を通るだけで分かる。やる気がない、気力が全くなくなっている。お店も閉められたところもたくさんあるので、白石町がそんなになるのは困るし、さっきのお話とまた重なる部分はあるが、農家さんがここは水が来るから畑も作れないという状態に先々なるのではというぐらい水に関しては危機感を持っている。住めないところには人も来ないので、できるだけ知識を、役場の職員さんばかりにこうしてああしてじゃなくて、町民がもっと意識を高めて、もっともっと来年はこういう経験をしない方がいいようにという対策を取れるように、情報も提供するといいのかなと思う。講演会だとか防災ハンドブックとかも一応ありますけ

れども、あれも本当ならば簡単でいいので毎年作ってもらいたい、内容をどんどん変えて。同じ内容とか古い情報は要らないので、もっともっと勉強して被害が少ないように、そしてたくさんの人が住みたいなって思う町にしていだければと思う。

事務局：たくさんの意見ありがとうございます。

まず、役場職員の対応や通行止めの看板が立てたまま等の対応は申し訳ありません。冠水箇所を知らない件に関しては、職員自体が常に今現在の状況というのを、自分は担当課じゃないからという意識じゃなく、白石町のことだという意識を持って情報を収集するという気持ち、認識が一番大事だと思うので、そこら辺はしっかり職員のほうに伝えていきたい。

防災ハンドブックについては、もっと分かりやすい、親しみやすいそういうハンドブックを考えていきたい。

冠水箇所や通行止めの箇所も含めて情報の公開をもっと積極的にやってほしいという、武雄市の例を挙げてお話をさせていただきましたけど、これも実際内部のほうで、例えば通行止めの箇所とかの公開をすべきじゃないかという議論は確かにしている。できればリアルタイムとまでにはいかないが、情報を随時更新していかないと情報データが古くなってくると使い物にならない、そこら辺の職員体制あたりまで今詰めて話を役場内でしているところでございまして、なかなかそれが実現できてないという状況でございますので、もっと検討をしていきたいと思っている。

これだけ災害が続いている近年ということで、もっと防災に力を入れなければならないという話だが、この報告書にあるが、雨水排水施設及び体制の整備ということで、流域治水対策ということで上げている。直接的には建設課の事業になり、令和3年度の予算で町内の浸水被害等の要因の分析をして、それと併せて町内にある河川や水利施設、例えばクリークとかため池等を活用した治水対策の検討を行うようにしている。この事業が今年度いっぱい単年度の事業であるが、業者に調査を委託し、その結果が出てきて、その後県の各機関と一緒に具体的な今後の流域治水の対策というのは行うようにしている。実際どのような対策を行うかはこれからというところになっているので、この対策で少しでも被害が軽減できればというふうに考えている。

事務局：根本的な浸水被害の解決というところになると、先ほど申しました流域治水対策で調査をして、それに基づいて実施をしていくというのが根本的な解決になると思っている。かなり時間がかかるという部分もあり、現在は排水調整とか最大限の努力は町のほうでも、議会のほうでも非常に多くのご意見をいただいているので、特に力を入れてやっていくということで話がなされている。今度の総合計画の中でもこの項目は非常に重要な項目と思っているので、力を入れて取り組んでいく項目になると思っている。

委員：今回の水害は、一番は水路の水を落としてくださいということで町からお願いをした。しかし、その時期が悪かった。嘉瀬川ダムから来る水で用水の水を確保す

るといことは前の町長のときにしていただいて、今回水が来るようにというのがあったが、ちょうど雨がずっと降らなくて何にもなくて貯水池の水が落ちた。それで、水が来ないということで、町内の水門を担当される方々が出し切れない。水が来なかったら農業ができないということがある。私が今言っているのは、町内の水を1回出そうと。そして、2日後ぐらいに、例えば雨が降るといときに1回町内の水路の水を全部出してしまって、そして例えば1時間、どれくらいの降水量かを1回してみても、空になった水路にどれくらいためることができるのかという検証も今後必要。

確かに今回、小潮で有明海の干潮と満潮で水位の変化が少なくあんまり潮が引かなかった。引かないことによって、有明海に水が出なかったということもある。今回の水害はとにかくいろんな形で一番悪い形やったかなと、水路の水をなかなか出し切れなかったのが本当の原因じゃないかなと思っている。今後の対策が必要。

委員：総合計画の中に課題として「排水調整体系の確立」を凶っていくという項目があるが、この中で、ある程度具体的なプランも盛り込んでいただきたい。例えば今回の排水のことも議会でも随分たくさん議論がなされましたけれども、根本的なことと、それから対症療法的に端的にできること。例えば端的にできることは、膨大な制水門を連動して動かす。これができれば、かなり浸水が防げらと思う。今回も連携して、例えば弥福寺の前とか、先ほどおっしゃったようなことで、前回よりもつかってないところも出てきている。そこは排水がうまく機能しているということ。不必要な制水門は撤去するとか、それから浸水箇所を視角化してホームページとか放送で流す等、そういうことも必要だと思うが、長期的展望で必要なのは、有明海に直接水を出す排水路、だから新しい樋門が福富地区に必要なと思う。これは簡単にはできないが、県や国と連動して、長期計画のきっかけがこの総合計画の中に盛り込まれたらなという願いがあります。

委員：長期計画と言われたが、今すぐしないといけないこともたくさんあるので、本当に議会の中でもたくさん出た。利水と排水の調節というのはとても難しいと思うが、白石町内には大体630キロぐらいのクリーク、水路があるそうで、約500万トンの水のため込みができると。雨が降るといときはそれをどっと排水させて、調節をうまくやるということが大切。調査の中でも出てくると思うので、検討をよろしく願います。

委員：先ほどの武雄市のSNSが頻繁に更新されたという話だが。白石町はできない理由があるのか。

委員：一度尋ねたことがあるが人手不足という回答をされた。

委員：理由はマンパワーがないということ。分かりました。ありがとうございます。

委員：皆さんが災害対策について関心は高い。50年で1回しか来ないような洪水が2

年後に来たということで、議会でかなりの方が質問をされていたというところを私もケーブルテレビで見たが、ほとんどの議員さんがこの大雨については質問をされていた。ですから、町の職員さんたちも非常に今後詰めていただくとおもう。

2、3点私が考えているのは、まず井堰が今どうなっているか。私も具体的に見たことはないが、おそらく井堰でせきってあるところの井堰が、そこを越水で流れるか、水門を開けて下から流すようになっていると思う。これをもし越水がずっとできるように逆に扉を下に下げていくような井堰だったら、1段目のところまでは自由に引く。そういうのがあったら、ある程度越水で下のほうに流すことができるのではないかと思った。

白石町内にも国道、県道、メイン道路がある。そういうメインの道路が冠水をしてしまうということ自体が本当情けない。207号線が通れなくなるところがありました。それから、444号線も、上がるころ、有明排水路のところほとんど浸かる。距離的には上がるころだけで短いけど、結構深くて、軽自動車ではなかなか444号線には上がれないところが何か所かある。444号線へ上がる道路はかなり何か所かあると思う。それで、そういう道路関係については国や県に要望していただいて、メイン道路は通れるような対策を。

もう一つは、避難を早めに町民の方に呼びかける体制を取って欲しい。今どういうふうされているのかは聞いたことはないが、地元の消防団員さんの活動の一環として、早めに地元の高齢者の住宅には避難を呼びかけるのは一つの対策じゃないかと思う。

避難所の在り方だが、避難所は普通の家とあんまり変わらんところにあったら避難所が浸水する可能性もある。町のほうで考えられてちゃんと大丈夫なところを避難所に充てられると思うが、例えばプレハブ2階建てを造って、急なときには1階におっても2階に避難ができるような施設もあってよい。

事務局：ありがとうございました。

非常にいろんな意見をいただいた。実際この分野だけで1回の審議会を費やすぐらいのテーマと思っている、今回はいただいた意見を取りまとめたと思っている。

【子育て世帯への支援・保育サービスの充実】（資料20ページから24ページ）

委員：中央公園やこの辺の白石町の公園に子供を連れていったら、やっぱり草がかなり生えていたり遊具が古かったりとかそういったところに目が行ってしまう。そういった公園には行きたくない、あと周辺に生えている木等も枯れてきてはいるので、そういったところにも町が目配って管理していったほうがいいと思う。さらに、歌垣公園、歌垣山等のせっかく土地や遊ぶところがあるが、あんまりにぎわってないのでもったいない。江北町等に新しく公園ができたが、若い世代はそういったおしゃれなところが好き。子供とも遊びたいが、母親も一緒に楽しめるところが欲しいので、そういった施設も造っていただけたら子育て世代は楽しく

できると思う。

仕事をしていて思うのが、結構ADHDという発達障害のお子さんが最近すごく多いと感じる。少し触れ合っただけでちょっと違うと感じるが、専門医ではないので、お母さんや親御さんにちょっと違いますとは確実に言えない。保育園の先生も多分同じと思う、よければ保育園でもそういった専門医を入れたりとか、役場にも多分相談されに来る親御さんがいると思うので、専門医の知識がある方を入れてあげて、小さいときからその子に合った教え方を教えてあげたりする人が必要なんじゃないかなと思う。学校も合併するようになって使われない学校をどうするかの話もあるが、そういったところもデイケアみたいな感じでもうちょっと施設を増やす等の活用をしていただければもっと子育てしやすくなるのではないかなと思う。

事務局（進行）：まず、公園の管理の問題というところで、中央公園のお話と歌垣公園というところでご意見をいただいた。いろんな子育て世代の意見を聞いてよく聞くのが、遊ばせる場所が結構老朽化しているという話や公園はなかなか除草作業ができてないという話も実際聞くことが多い。その辺から子育て世代の人たちはその辺を見ているというのが今の意見でも非常に分かる。

事務局：中央公園については、今年度中にまず中央公園のトイレが利用者に不便をかけている部分やコロナもあったので、改修をするようにしている。先ほど言われたように草の管理については、年に数回除草作業をしているが、草というのはすぐ伸びるので、その辺は今後十分見ながら担当課とも話をしながら、利用されるお子様、お母様方等が利用しやすいような、管理については十分努めていかなければならないと思っている。

発達障害の話がされたと思うが、白石町においては、各保育園でそういった子供がいれば役場の保健福祉課に保健師がいるので、役場にすぐ相談をするようになっていく。それに応じて保健師が行って状況を見て、そのときある程度対応できれば対応する、できないようであれば専門の機関を紹介する等連携をしている。先ほど言われたようにおしゃれな施設等も必要かなと思う、なるべく利用者、保護者の方やお子さんが利用しやすいような環境を少しでも整えていければと思っている。統合再編で学校の跡をそういった施設に活用できないかという話については今後どういった活用をした方がよいのかなど庁舎内で現在検討をしている。

事務局（進行）：次の項目に移る前に、子育て支援関係について、もう2人意見をお伺いしたくて、事前に相談させてもらっている。こういうところがもう少し整っていけばというところで意見をいただければと思う。お願いします。

委員：特別に意見は言ってもらったので無いが、質問からさせてもらおう。20ページの母子世帯数の推移があるが、これは父子世帯も含まれているのか。母子世帯のみか。次の21ページの学習支援事業を有明公民館と福富ゆうあい館、白石総合センターの3か所で開始したとあるが、この利用状況についてと送迎等の問題はなかったのか質問する。

事務局：確認し、回答する。

委員：10ページに暮らしの重要度で、子育てがしやすい町というのが6位だが、満足度が0.66で、改善しているのは良い。

どのような町にしたら子育てしやすい町になるのか、今いろいろ意見があったが、総合センターや運動広場をつくると言われたときに、屋外にグラウンドや遊具を作ると言われた。そのときに室内で遊べるところをつくってくださいと要望してゆめてらすができた経過があるが、確かに遊具をそろえるのがいい。総合センターの遊具も3歳ぐらいにならないと遊べない。だから、遊びに連れて行って、下の子を抱っこして行くことになるので、子供でも行けるようなちょっとした休憩所みたいなをつくってもらいたい。そしたら、子供をちょっと寝かせている間、お兄ちゃんは遊んでいるとか、両親で連れていったりしたらそういうことができるので、ちょっとした休憩所みたいなをつくって、楽しく遊べたらいいかなというのが1つある。

今は若いお母さんたちのために、ゆめてらすがあるが、ゆめてらすに来ている方たちも多久や江北の施設行ったと言われる。ゆめてらすもPRの仕方が悪いのか利用者をもっと増やし活気づけばよい。

コロナで飲食店や施設に4人までという人数制限がある。普通標準家庭の設定が親2人に子ども2人になるがそこがおかしいと感じる。少子高齢化対策で子どもを持ちましようと言うのなら、子供はせめて3人、家族5人ならいいと言うぐらいのもっと幅広い配慮をしてもらったらよい。

事務局：ありがとうございました。様々な意見があり、非常に共感するところが多くあり計画策定の際に参考にしていく。時間の都合もあるが、もう一人意見を聞ければと思っている。

委員：白石町の子育て支援について、就学、未就学にかかわらず、すごくよく支援をされているという印象を持っている。今日他の委員の意見を聞いて、様々な観点の意見がたくさんあったので、私も勉強になったと思っている。

保育園に勤めていて思うことは、保育での子育ては、お母さんとの関係、お父さんとの関係というのが基本にあることなので、その先の支援等を言っていることはもちろん分かっているが、お父さんと子ども、お母さんと子どもという関係をまず一番大事に育んでいけるような町であつたらすごくいいなと思う。そしたら、その子たちがお父さん、お母さんが住んでいる白石町のことをすごく大好きになってくれて、その子たちがここに定住してくれるというのが長い目で見たときに大事になる。お父さん、お母さん、どちらにも子育てに参加していただけるような白石町であつたら良いと思う。

先ほどの公園の管理について、白石町は先ほど言われたように中央公園と福富にも大きい公園があり有明にもすてきな公園があつて、私たちが小さいときみたいに田んぼでボールを投げたり蹴ったりというような環境ではないので、グラウンドのある広場のあるような公園があるのはすごく子供たちにとってもいいことだ

と感じる。もちろん小さい子供たちはゆめてらすなどを活用していただくのも、よく先ほど考えてあってすごくいいなと思う。

江北町のほうでは先ほど言われたおしゃれなカフェができ情報発信もすごくされている。子供だけで行くこともできるが、小さい子供たちはお母さん、お父さんと一緒に休日を過ごしている。お父さんもお母さんも仕事で疲れていて、草が生い茂っている公園に行くよりもおいしいコーヒーなんか飲みながらすてきなお休みをされるのがお父さん、お母さんにも心地よく休みを使っていただけでいいなと思う。そういうことを考えると、おしゃれにするとかいうよりも情報発信をどんなふうにしていくかがすごく大事だになって。先ほどの空き家の問題にしても水害の問題にしても、情報発信がうまくできてない感じが全般的に見ていて思う。話が前後するが、水害について言えば、SNSで情報を発信すると反応がかなりある。しかし、役場のホームページを見るという気にはならないので、もっと闊達に情報が更新されるような情報発信の仕方を考えて欲しい。白石町は自然がすごく多いので、四季を感じるができる。親と公園に行って花をみたり虫を捕まえたりする経験は子供にとってすごく心の栄養になること。公園活用も情報発信をしっかりしていけば興味を持ってもらえるのでは。

事務局（進行）：先ほどのテーマでも情報発信の件は非常に多く出てきており、様々な面でその在り方を考えていく必要がある。計画をつくる際も情報発信についてはほかの分野でもしっかり考えて計画を作成したい。

【農林業の振興】（43ページから47ページ）

委員：農事組合法人という組織が立ち上げられた。昔は営農組合というふうなことで聞かれたかというふうに思うが、平成19年頃に営農組合組織をつくらないと交付金がもらえないとなった。それがメインではないが、今も農家はやっぱり交付金頼み。交付金をもらうために営農組合を設立したが、そこから5年後には法人化をしてくださいという決まり事があった。

ところが、5年では無理となり延長になって、とうとう10年ぐらい経過をして、平成28年、北明の農事組合法人が最初に立ち上げになった。それも、もうそろそろ法人化をしないと、これについても交付金の削除がされるかもというところで法人の設立をした。北明が設立するときには仕方ないかなという感じで設立をしたが、普及センターや県が言うには、将来を考えて法人化をしないと、農家の後継者がいなくなって、農地が荒れる。誰かがそこを管理、耕作をしないと駄目なので法人を立ち上げて、法人で面倒を見られるようにというふうな建前がある。法人化して丸5年経過しようとしているがはっきり言って、法人化したメリットを感じられないのが1番の疑問点。

今2分化をうちの法人ではしている。というのは、1つは、担い手農家は、法人で働いているが町が認定農家ということで認可をしていけば、法人に入っていないなくても交付金がもらえる制度になっている。なので、法人に残っているのは、規模がある程度小さい、例えば2、3町未満の農家が法人に残っているのかなと。

4町、5町以上の人は認定農家の認定を受けて、自分たちでしたほうがよいかなという感じを持たれている。さっき言ったようにうちの組織は5年目になるが、毎年数名の方が脱退をされる。もちろん離農するという事で脱退をされる方もいらっしゃるが、認定農家になり法人に入ってなくてよいということで、毎年4、5名の方が脱退をされている。そういうところに町は目を向けて欲しい。組織のやり方というのに目を向けていただければと思う。

設立をするときには、普及センターも町も農協中央会の職員も、一生懸命会議に来ていたが、設立してからは一回も来られない。ある程度指導や支援をしていただければ。もうちょっと長い目で見て、育成、指導をしていただければと思う。まだ本当に軌道に乗り切っていないというのが本音。法人組織の立場としてはそこが一番の課題なので、何とか町なり県なりのご支援を、ご指導をしていただければなというふうに思っている。どの法人もそういうふうに思っているというふうに思う。協議の場をまずつくっていただいて、いろんな意見を聞いていただきたい。

農業全体での課題は、何といても農業従事者の後継者不足と高齢化。これについてはどうしようもないくらい進んでいっているが、町のほうでも後継者問題については農業塾等の取組もなされているが、それでもカバーできないぐらい今からは減少をしようと思っている。まだ何とか大規模農家さんが田んぼを預かっていたところがある。そういう方たちに相談をされて、農地の貸付けをされているが、これが果たしていつまで大規模農家でも引き受けられるかという心配があるし、そうなってくると法人で預からないかという話が出てくると思うので、それを預かれるような組織体制をつくっていく必要がある。

事務局：ありがとうございます。法人経営の上での様々な問題点を話してもらった。関連をするのでもう1名意見を聞きたいと思うので先ほどの内容等を踏まえて、何か意見があればお願いします。

委員：後継者不足と高齢化が進んでいる。後継者が大分不足しているなという感じがしている。新規就農者や外部から来る人たちの支援はトレーニングファームに行く等いろいろあるが、担い手問題解決のために農業をやりたくなるような何か補助とかがもうちょっと後継者に対してもあってほしい。

あとは、自分の田んぼの話になるが、有害鳥獣対策の中の鳥とかよりどちらかというとイノシシのほうの問題で自分たちは電柵という電気が流れる網を設置して対策しているが、そういういった補助も少しあってほしいかなというのは個人的に思っている。

先ほど言ってもらった新規就農の話等も勉強になったなと思っている。

事務局：特に農業集落法人の今の悩みについてお話をしていただいた。私も今年ある集落営農組合法人の総会に出席をした際、先ほど言われた悩みを訴えておられていた。これは白石町だけの問題でなく、全国的な問題と感じる。また県内でもそういった問題を抱えておられるところもあるということで、県に対策を考えてもらいたいと訴えもしているが、この問題についてはこの総合計画の中でも個人的には上

げていくべき問題だと思っている。

後継者不足問題については、いろんな事業を行っているが、紹介をさせてもらうと、後継者の数は県内では市町のほうでは一番多い数というふうにはなっている。国の補助事業等も活用して行ってもおり、町単独でも、金額的には大きくないが、後継者の方への助成金ではないが、そういったことも行っている。

他の市町から来ていただく方には支援は手厚いのに、後継ぎの方はなかなか支援が少ないということも、以前からお聞きをしている。こちらも国の補助事業等を活用しながらどんどん取組も進めているところであるが、特に総合計画の中でも重点的な事業ということになると思っている。

【水産業の振興】（４８ページから４９ページ） 次回へ持ち越し

事務局：時間もきているので本日も予定していた意見交換はこれで終了する。レジュメに「その他の施策分野」についてはここで様々な意見をお伺いしたいと考えていたが、時間が差し迫ってきているのでここでは議論を終了させていただく。

会 長：（２）その他について委員よりあるか。

（「なし」と呼ぶものあり）

会 長：ないようなので、事務局へ進行をお返しする。ご協力ありがとうございました。

事務局：事務連絡になるが、次回の審議会は１０月２０日の水曜日を予定している。今回同様テーマ毎に町の方から意見を伺いたいと通知をさせていただくのでご協力をお願いします。

○閉会

事務局：本日は活発なご意見をありがとうございました。

次回もこのような形で進めていくので本日の資料にお目通しの上、またさらにご意見をいただけるようお願いしたい。これで第３回の審議会を終了します。